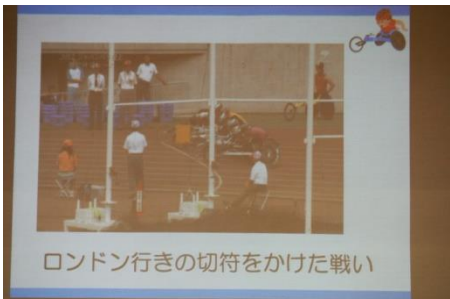


平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【熊本県】

1 実践テーマ	【I III V】
2 実施対象者	小国小学校3・4・5・6年生（208名）
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（総合的な学習、生活科、道徳）
4 目 標 （ねらい）	○オリンピック・パラリンピック及びスポーツの意義や価値等に対する理解・関心を高める。 ○障がい者を含めた多くの市民とともに、生涯にわたってスポーツに親しむ態度を育てる。 ○スポーツを通して、自分で考え、行動する力を身に付けたり、仲間との人間関係を構築したりする態度を育てる。
5 取組内容	1 事前学習 本校では、実践を前にただ「パラリンピック」のことだけを子どもたちに伝えるのではなく、自分のくらしや身近なこととできるだけつなげて考えていけるような事前学習を各学年で時間を設定し、学習しました。 2 講演 演題：「パラトーク」 講師：花岡 伸和さん  入場する花岡さん  アメトークならぬパラトーク  子どもたちの間に入って語りかける花岡さん  ロンドン行きの切符をかけた戦いの映像

	花岡さんのお子様たちへのメッセージ 子どもたちによる車椅子体験 子どもたちに夢をたずねる花岡さん
6 主な成果	○事前学習前に、ただ「パラリンピック」のことだけを子どもたちに伝えるのではなく、自分のくらしや身近なこととできるだけつなげて考えていけるような学習を学校総体として行っていくべきか、2年生の学級での提案授業を通して、職員で勉強会を持ち、そのことをいかして、各学年（学級）で提案授業行った。 ○「脊髄を損傷しなければ気付かなかったこと」「失ったものを数えるな、残されたものをいかせ」「自己肯定感～自分を好きになる～」等、笑いながらポジティブな言葉を語り続けたり、心から今を楽しんでいる花岡さんの人柄にふれ、子どもたちは素直に、「前向きに生きること」や「自分の夢に向かって、努力すること」、そして「車椅子陸上を行っている姿」等、花岡さんのすごさや魅力に気づいていた。ただ、「辛い」に「一」を加えると、「幸せ」という字になり、ゴールラインを意識して、しんどい練習や努力することの大切さという言葉も子どもたちの心に響いていた。
7実践において工夫した点 （事業の特色）	○事前学習の工夫（職員研修の導入と各学年部による内容検討） ○体験活動（車椅子レース）の導入 ○参加学年の絞り込み（3～6年） ○実施時期（11月：厳冬期を避ける）
8主な課題等	●事前学習の工夫及び深まり（職員研修の導入や各学年部によるしっかりした内容検討が必要） ●体験活動の導入（今回は、児童4人のみが車椅子体験を行ったが、可能な限り多くの児童に体験活動を経験させるようにする）
9来年度以降の実施予定	・昨年度及び今年度と2年連続で取組を行ってきたが、事前の学習やオリンピックやパラリンピックとの触れあいを通して、オリ・パラ教育を更により深く学ぶことができるよう、来年度も是非取組を継続させていただきたい。